

メディア映像専攻 3ポリシー

ディプロマ・ポリシー

■人材育成目標

メディア映像専攻では、様々なメディアや映像を通じた表現やデザインを新たなイメージで創造できる人材の育成をめざしています。

■卒業までに身につけるべき資質・能力

- ・先進的なメディア映像に対応する技術力とそれを具現化できるデザイン力・表現力
- ・様々な表現をする上での概念を構築する能力
- ・人間としての総合力と国内のみならず国際化する社会への適応力

■学位の授与方針と評価方法

最終年次の「卒業制作」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学士の学位を与えます。

- ・所定の在学期間の確認、必要単位修得の確認
- ・卒業制作の評価・・・教員全員の審査員が卒業制作作品を様々な視点から審査し、協議の上、総合的に評価を決定します。

カリキュラム・ポリシー

■教育課程の編成方針

メディア映像を表現媒体とする上で必要となる基礎的な造形能力を学び、社会への応用力をより確かなものとする、様々な分野・領域を柔軟に横断できるカリキュラムを編成しています。また、少人数指導で多様な思考を学びながら各自の個性に応じて独創性と表現力を高めていきます。

■具体的なカリキュラム校正と特徴

- ・1年次は「基本となる造形能力を身につける」学年とし、描写と観察、時間表現、形と構造、色彩表現、コピーライト、インフォグラフィクスなどを学びます。
- ・2年次は「専門性への拡張」の学年とし、それぞれのメディアにおける表現を学び、自らが志向する専門的研究領域を目指します。
- ・3年次は「研究を深める」学年とし、目指す専門メディアを選択し、研究ゼミによる専門的指導により技術的研究を深め、それぞれの学生が自主的な研究制作を行います。またCGゼミ、アニメーションゼミ、ウェブゼミ、スタジオゼミなどで必要となる機材やアプリケーションなどの基本についても学びます。
- ・4年次は「表現の成立」の学年とし、卒業制作作品を制作します。学年の前期に担当教員による指導を受け制作を構想し、後期には研究プランに従ってそれぞれの専門スタジオ等を利用して制作を行います。

■教育課程の評価方針・方法

- ・課題の指導は専門性の高い非常勤講師を含めた教員があたり、評価は協議により総合的に行います。
- ・その他の授業科目については、各科目の担当教員がシラバスに定めた方法により評価します。

アドミッション・ポリシー

■ 求める人物像

- ・メディア映像表現に強い関心と探究心をもっている人
- ・様々な芸術に強い関心があり、新しい表現を目指す人
- ・問題を発見し、柔軟に解決する思考力と行動力がある人

■ 入学前に身につけてほしい学習成果

- ・基礎的なデッサン力
- ・基礎的な構成力
- ・豊かな創造力と表現を試みようとする発想力

■ 入学試験の基本的な方針・考え方

受験生が能力を最大限発揮できるように、試験問題、試験時間に配慮し受験しやすい環境を整えます。

【一般選抜】

- ・大学入学共通テストによる学力試験および デッサン、構成の実技試験の合算により、合否を判定します。
- ・合否ラインで総合得点が並んだ場合に、調査書・活動報告および志願理由書を活用します。

【総合型選抜】

- ・自己アピール資料審査と実技試験、面接試験により、合否を判定します。